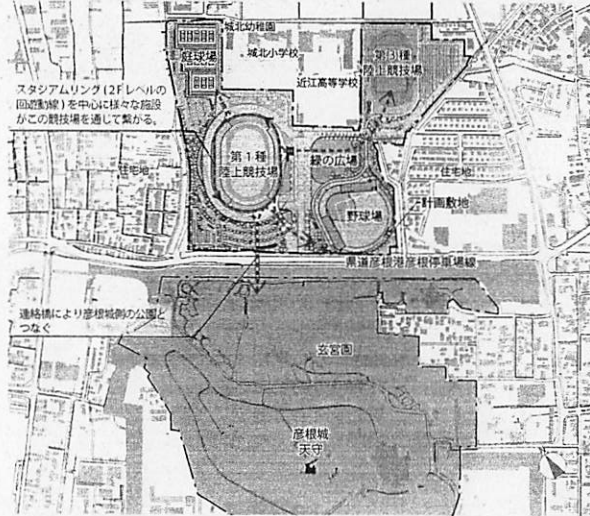


滋賀の歴史文化を継承し、 親しみをもてる交流の架け橋となる競技場

2024年に開催する国民スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会のメイン会場(開閉会式と陸上競技の会場)として、滋賀県立彦根総合運動場に第1種陸上競技場を備えた公園として再整備します。

第1種陸上競技場は、彦根城の世界遺産登録に向けた取組や防災機能の強化等に配慮した建物形状、競技者の使い易さや構造安全性、環境負荷の削減等を総合的に考慮した設計としています。



第1種陸上競技場の計画概要

敷地	トラック・フィールド
所在地 : 滋賀県彦根市松原町	トラック : 400m×9レーン
面積 : 21.2ha	レーンの幅 1.22m
	舗装 : 全天候舗装 (ウレタン樹脂スプレーエポキシ) ディフュージョン 107m×71m
建物	■施設概要
建築面積 : 14,235㎡	飛躍競技施設 : 発砲銃 6ヶ所
延べ床面積 : 24,043㎡	三銃銃 6ヶ所
構造 : 鉄筋コンクリート造	種差銃 6ヶ所
基礎 : 一部鉄骨造	走射銃 5ヶ所
規模 : 5階建て	砲丸投 4ヶ所
総高さ : 24m	やり投げ 2ヶ所
収容人員 : 15,000人	両脇投・ハンマー投 2ヶ所
メインスタンド : 7,000席	選手物競争設備 : 水溝をレーンの外側に設置
(北側にスタジアムに大型映像装置を設置)	

第1種陸上競技場の5つのコンセプト

- 1. コンパクトな競技場**
 - ①メインスタンドの観客席を2層構成にし、フィールドとの距離を短くした臨場感の高い観戦が可能
 - ②競技場周辺に空間を生み出し、住宅地からの距離を離すことや樹木を植栽し圧迫感を低減
 - ③建物の幅や屋根の架設面積を縮小したことによるコスト削減
- 2. 歴史景観に配慮した競技場**
 - ①伝統的な真壁造りや下見板張りのデザイン
 - ②かつての内湖にあった百間橋をモチーフに柱と梁を連続した楕円状に構成
 - ③城下町の景観と調和するように彩度を抑えた色調を採用
- 3. 周囲を自由に回遊できる**
 - ①2階レベルに段差なく回遊できる歩道空間(スタジアムリング)を設置
 - ②回遊できる歩道空間に三つの階段と一つのスロープを設け公園内各施設への動線を確保
 - ③歩道空間と連絡橋を接続し市営金亀公園へのアクセスを向上
- 4. 環境負荷の削減を図る**
 - ①遮光・防音ルーバーを設置し住環境負荷(光もれ、音もれ)を低減
 - ②競技場照明をはじめとする全ての照明にLED器具を採用
 - ③県産材の活用に努め輸送によるCO2の発生を縮小
 - ④屋根に降った雨水はフィールド芝等への散水に利用
- 5. 安全で安心な競技場**
 - ①耐火性の高い構造架構
 - ②災害時の緊急輸送機能や避難施設機能を確保
 - ③発災時には貯水した雨水をトイレの洗浄水等に活用
 - ④日常動線が避難動線になる、安全でわかりやすい避難計画



彦根城天守からの眺め：周りを樹木で囲った景観と調和した競技場



2層構成としたメインスタンド客席



公園と第1種陸上競技場をつなぐ「緑の丘」と「大階段」



バックスタンドスタジアムリング

